

下記のとおり報告がありましたので、提出します。

1. 派遣者

ふりがな すぎ みゆう

所属 星薬科大学生薬学研究室 職名 学生 氏名 杉 実祐

2. 研究集会名

(欧文名) International Conference on Medical Plants and Natural Drug Research

(訳文名) 薬用植物と天然薬物研究に関する国際会議

3. 派遣期間

2024 年 6 月 5 日 ～ 2024 年 6 月 8 日 (4 日間)

4. 国際研究集会の概要とその成果 (併せて600字～800字で記載下さい。)

(概要)

本研究集会は、世界中の薬用植物および天然薬物研究関連分野の科学者が参加し、食用植物と薬用植物の資源、栽培、化学成分、生物活性、医療応用に関する成果を交換するための場である。中央アジアを中心に、世界中の大学および研究機関のメンバーが集まり、中央アジアに自生する薬用植物および天然薬物に関連する分野の研究を討議し、基礎と応用研究の技術を展望することを目的としている。

(成果)

研究集会の中で、以下のような成果が得られた。

- 1. 科学者間の交流:** 世界中の薬用植物および天然薬物研究関連分野の科学者が集まり、口頭発表を通じて最新の研究成果を共有し、意見交換を行った。これにより、参加者同士の視野が広がり、新たな共同研究の機会が生まれた。
- 2. アル・ファラビ・カザフ国立大学の見学:** 集会に参加した科学者たちは、アル・ファラビ・カザフ国立大学の生薬学研究室を見学し、カザフスタンの文化や教育環境を直接感じることができた。この見学により、現地の研究設備や研究内容を知ることによって、新たな研究アプローチを取り入れるきっかけとなった。
- 3. 植物探索:** カザフスタンに自生する植物の探索も行われた。標高 3194m の山に登り、植物の分布状況を調査した。ヒカゲノカズラ科植物は発見できなかったが、麻黄が多く自生していることを確認した。この調査活動を通じて、中央アジアやロシア、中国に分布する植物に関する知見が深まり、日本では得られない貴重な経験となった。

これらの成果を通じて、本研究集会は科学者同士のネットワークを強化し、薬用植物および天然薬物研究の分野において新たな知識と技術を共有する場として重要な役割を果たした。

5. キーワード（本研究成果のキーワードを最大6つお書き下さい。）

- ①薬用植物 ②天然薬物 ③ 植物探索
④生物活性 ⑤ 医療応用 ⑥国際研究交流

6. 本会からの助成に対する意見・希望等

今回の助成により、私たちの研究活動は大きく前進し、多くの成果を得ることができました。この場を借りて、助成をいただいたことに深く感謝申し上げます。

1. 国際交流の機会: 助成金を活用して、国際研究集会に参加することができました。世界中の科学者と意見交換を行い、新たな視点やアイデアを得ることができました。これにより、国際的な研究ネットワークを構築し、将来的な共同研究の基盤を築くことができました。

2. 若手研究者の育成: 助成金は、若手研究者の育成にも大きく貢献しました。博士課程 1 年次に国際学会の参加という経験を通じて、研究の視野を広げることができました。今後も若手研究者への支援を続けることで、未来の科学技術の発展に寄与できると確信しています。

希望

今後も引き続き、以下の点での支援をお願いしたいと考えています。

1. 安定した助成: 研究の継続性を確保するために、安定した助成の提供をお願いしたいです。これにより、長期的な研究計画を立て、より大きな成果を上げることができます。

2. 多様な助成プログラム: さまざまな研究分野やプロジェクトに対応した多様な助成プログラムを提供していただけると、さらに多くの研究者が支援を受けられるようになります。

今回の助成により、私たちの研究活動は多大な進展を遂げました。今後も引き続きご支援いただけることをお願い申し上げます。